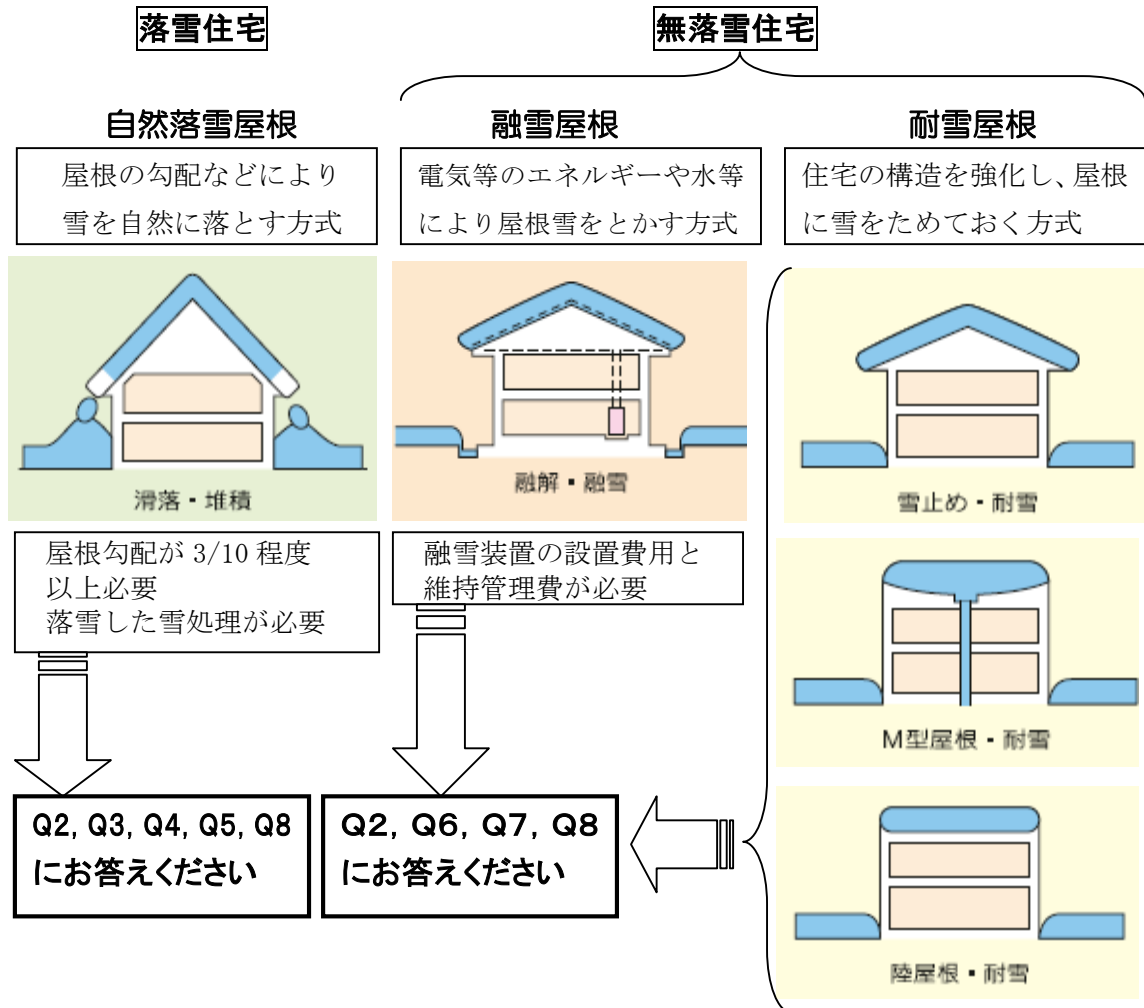


住宅の屋根雪処理チェックシート（仮称）【一般向け】

〔モニタリング用第3案〕

Q 1 新築・改修予定の住宅の屋根の形状は、どのようにお考えですか。



⇒住宅の建設地の積雪は何mですか。→【別シートの等高図で確認しましょう】

普通の住宅は、積雪 1 m 程度まで耐えられます。

1 m 以上の積雪には、屋根計画や敷地計画の配慮が必要です。

Q 2 屋根に上れるか確認しましたか。

- ① 確認した
- ② 確認していない

⇒総二階建て住宅などのように上り口がない場合や高床式住宅のように屋根がより高い位置にある場合などは、メンテナンス時に足場を架ける必要が生じるなど、費用がかかる場合があります。

Q 3 屋根雪が隣地境界線を越えて落雪しないことを確かめましたか。

- ① は い
- ② いいえ

予測される落雪飛距離 _____ m

確かめるのに要した資料

〔県の克雪住宅の手引き・各市町村の指導値・その他〕

⇒屋根雪が隣地境界線を越える場合には、屋根雪が隣地、道路に落雪しないための塀などの設置が必要です。

Q 4 屋根雪の落雪を阻害する可能性がある突起物がありますか。

- ① は い
- ② いいえ

屋根の部分と個数 〔部分 _____ 個数 _____ 〕

Q 5 宅地内に落雪した屋根雪を処理するスペースはありますか。

- ① は い
- ② いいえ

⇒十分なスペースがない場合、宅地内融雪や融雪槽の設置も有効です。

または、屋根計画の見直しをしてみましょう。

Q 6 無落雪屋根の種類は、どのような方式によるものですか。また、各方式のメリット・デメリット及びメンテナンス方法について、設計業者や建築業者から説明を受けましたか。

- ① 説明を受けた
- ② 説明を受けていない

※各屋根の方式の具体的な特徴については、内側のページをご覧ください。

〔事務局注釈：未作成です。〕

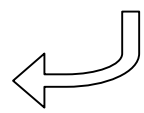
1：融雪式屋根

⇒融雪装置の設置費用と維持管理費用が必要ですので、融雪装置の方式の差異について、設計業者などから十分な説明を受けてください。

1-1：電熱式 1-2：温水式 1-3：ヒートパイプ式 1-4：温風式

2：耐雪式屋根

⇒最大積雪や想定される滑落雪量に耐えられる設計、施工となるのか、設計業者や建築業者から十分な説明を受けてください。雪の重さに耐えられる構造が必要となるため、建設費の負担が生じます。

- 2-1 : M形屋根 / 2-2 : フラット屋根 / 2-3 : 非滑雪勾配屋根
- { 2-3-1 : 雪止め金具を付けた勾配屋根
2-3-2 : 立ちはぜの勾配屋根
2-3-3 : 粗面の屋根素材を用いた勾配屋根 }
- 

Q7 ^{せっぴ}雪庇ができることについて、設計業者や建築業者から説明を受けましたか。

- ① 説明を受けた
② 説明を受けていない

⇒^{せっぴ}雪庇は、耐雪式屋根の風下の方で発生しやすいようです。住宅用地を購入する場合には、周辺住宅の^{せっぴ}雪庇のできる位置を確認したり、冬季の風向きを知っておくことが重要^{せっぴ}です。
また、^{せっぴ}雪庇防止柵の設置も有効です。



Q8 積雪障害を防止するため、断熱材の厚さ、気密措置、小屋裏の換気措置について、設計業者や建築業者から説明を受けましたか。

- ① 説明を受けた
② 説明を受けていない

屋根または天井の断熱材の厚さ _____ mm

天井面での気密措置 [す る ・ し ない]

小屋裏の換気措置・天井見付面積に対する小屋裏換気孔の面積比 [面積比 _____]

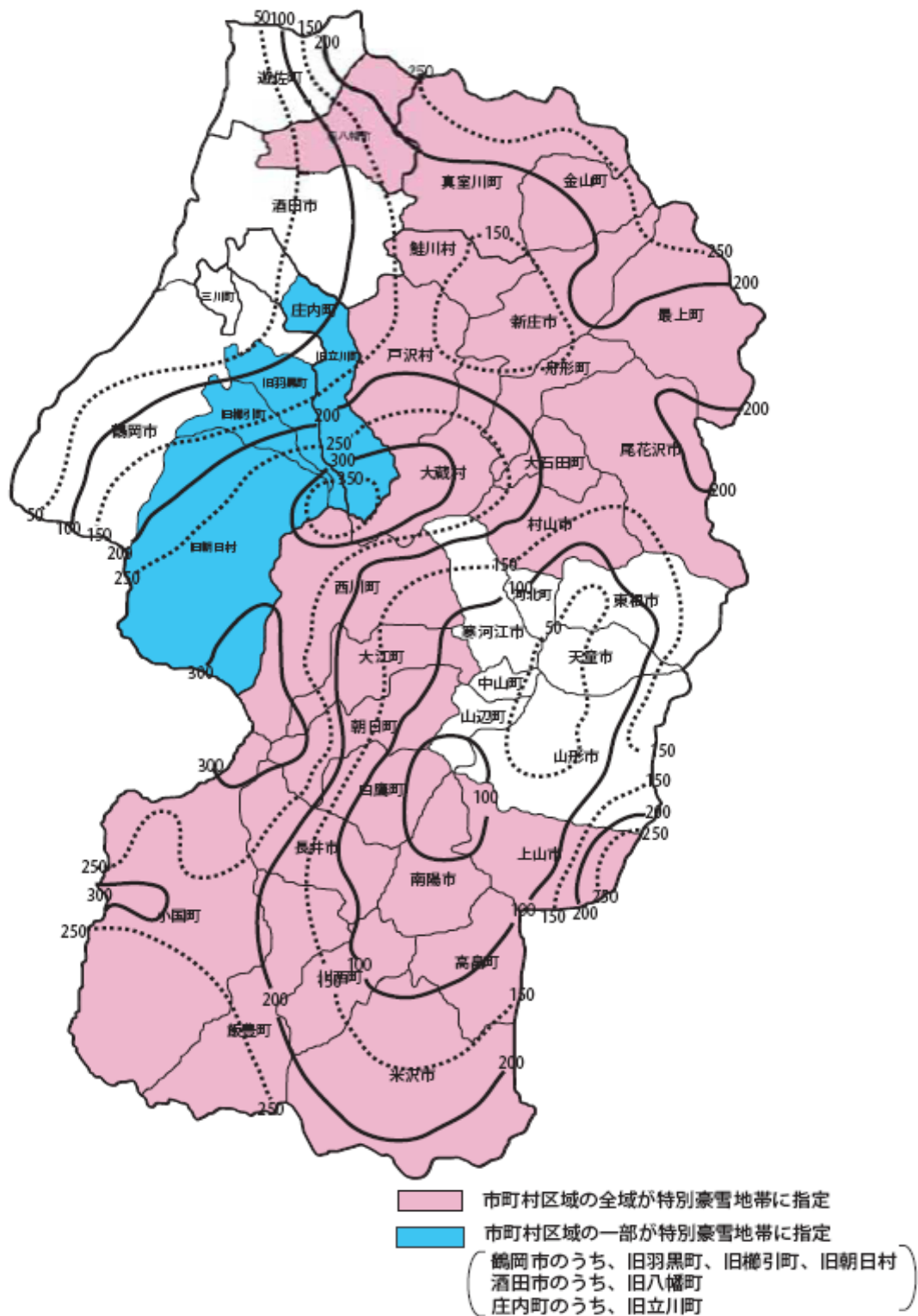
本チェックシートは、住宅を新築・改修する場合に、施主さんが、屋根雪処理について自己点検したり、設計業者や建築業者と打合せする際の参考としてご活用ください。

打ち合わせを行った日時： _____ 年 _____ 月 _____ 日 施主： _____

会社名： _____ 住 所： _____

説明をした担当者： _____

1.3 最大積雪深（平均）等高図



【作成者】やまがたゆきみらい推進機構 屋根雪処理部会

〒995-0024 山形県村山市楯岡笛田四丁目5-1 電話 0237-47-8614